長崎自然共生フォーラム News Letter

立夏号（第16号） 2014年8月10日 発行

論説にかえて —

森林・山村の多機能発揮対策

長崎森林・山村対策協議会職員 豊澤健太

（6月27日、総会に引き続いて行われた基調講演の詳細をお伝えする。冒頭、演者は、本日の話の流れは①対象となる活動について、②どうすれば支援が受けられるか、③支援の内容についてであり、その背景は、山林が過疎化に伴い地域住民と森林との関わりが希薄になり、竹の侵入等による里山林の荒廃が進み、森林の有する多面的機能の発揮が難しくなっていることにある。里山林の保全管理や資源を利用するための活動に対して林野庁が支援を行っている。申請タイプは4タイプあるが、森林利用タイプ：自然体験などを除く3タイプについて説明する、と述べた。）

< I. 活動への支援 >

① 荒れている里山林の手入れをしたい

【地域環境保全タイプ (1)】：里山林景観を維持するための活動

- ・ 交付金額（単価：16万円/ha）＊下限は0.1ha
- ・ 何をすればいいのか ● 雑草木の刈り払い・集積・処理、落ち葉掻き、歩道・作業道の作設・改修、地拵え、植栽、播種、施肥、不要萌芽の除去 ● 緩衝帯・防火帯の作設のための樹木の伐採・搬出 ● 風倒木・枯損木の除去・集積・処理 土留め・鳥獣害防止柵等の設置 ● 機械の取扱講習 ● 森林の見回り（見回りのみは対象外） ● 傷害保険等。

② 荒れている竹林の手入れをしたい

【地域環境保全タイプ (2)】：侵入竹の伐採・除去活動

- ・ 交付金額（単価：38万円/ha）＊
- ・ 何をすればいいのか ● 竹・雑草木の伐採・搬出・処理及び利用、森林・竹林の見回り（見回りのみは対象外）。

③ 薪など地域の資源を活用して、山村を活性化したい

【森林資源利用タイプ (1)】：集落周辺の広葉樹等の搬出活動

- ・ 交付金額（単価：38万円/ha）＊下限は0.1ha
- ・ 何をすればいいのか ● 雑草木の刈り払い・集積・処理・落ち葉掻き、歩道・作業道の作設・改修 ● 県民参加の森づくり ● 木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木・伝統工芸品原料のための未利用資源の伐採・搬出・加工、● 特用林産物の植付・播種・施肥・採集 ● 森林の見回り（見回りのみは対象外） ● 傷害保険等

【森林資源利用タイプ (2)】：森林環境教育の実践

- ・ 交付金額（単価：5万円/回）
1回の参加者おおむね10名以上（離島地域はおおむね5名以上）
＊室内での座学のみは対象外。
- ・ 何をすればいいのか ● 森林環境教育、森林レクリエーション（森林セラピー・体験の場づくり、生物多様性保全の調査体験 ● 林業の際の安全講習、移動のためのバス借上げ、森林施工技術の向上に向けた技術指導、傷害保険等。

< II. 資機材への支援 >

- ・ 活動の実施に必要な機材・資材の購入は、額の1/2を助成する。3万円以上の場合、2者以上の見積もりが必要。

【想定している資機材】：刈払機、チェーンソー、丸鋸、ウインチ、軽架線、チップパー、わな、苗木、電気柵、土留め等資材、薪割機、薪ストーブ、炭焼き小屋、あずまや（休憩や作業を実施する簡易建屋）、資機材保管庫、移動式簡易トイレ、携帯型 GPS 機器、設置費等。

*パソコン、デジカメ等汎用性の高い物品等は対象外。

<Ⅲ支援を受けるためには？>

- ① **活動組織**を立ち上げる。
 - ・3名以上（地域住民、森林所有者）、・自治会、森林組合、NPO 等が単独実施、または一構成員になることも可、長崎県の森林で活用する場合、事務所は県内におく、規約や区分経理が必要。
- ② **対象森林**を決める。
 - ・森林所有者の合意が得られる森林・面積が 0.1ha 以上（10a=1000 m²）およそ 32m × 32m、活動を行う時点で、森林経営計画及び森林施業計画が策定されていない（但し、森林空間利用タイプに関しては策定森林でも活動可能）。
- ③ **対象森林の面積**を測定する。森林計画図、森林簿を自治体で入手し、面積を調べる（縮尺 5000 分の 1 以上の図面に限る）、上記資料がない場合、現地で実測する。
- ④ **活動計画等**の申請書を作る。
 - ・活動組織名、所在地、取組みの背景及び概要、3年間の活動計画、・年度別の取組み内容、計画図、委託内容等。

<Ⅳその他留意点>

- ・組織あたりの支援上限は、**500万円**。
- ・森林整備の作業等について、地域の森林組合などに作業を**委託**することも可能。
- ・人工林でも活用出来ます。
- ・対象森林が登記簿地目「畑」なっているも、**非農地証明取得**すれば対象森林なる。

<Ⅴ支援の内容について>

- ・人件費・・・賃金（1時間当たり 700円、機械を使う場合は下記賃金を参照）
- 県央振興局管内（機械作業員 1350円以下、普通作業員 700円以下）。

- 県北振興局管内（機械作業員：下刈り 1300円以下、普通作業員 700円以下）、（機械作業員：チェーンソー1300円以下、普通作業員 700円以下）。
- 島原振興局管内（機械作業員 1350円、普通作業員 700円以下）。
- 五島振興局管内（機械作業員 1337円、普通作業員 700円以下）。
- 壱岐振興局管内（機械作業員 1075円、普通作業員 700円以下）。
- 対馬振興局管内（機械作業員 1412円、普通作業員 700円）。
- ・謝金・・・資料整理、技術者補助、専門的知識の提供：森林組合 ok、資料の収集等について協力を得た講師等に対する謝礼に必要な経費とする。謝金の単価については適切に、原則、事業実施主体の構成員に対しては可能。
- ・旅費・・・事業主体が行う資料収集・各種調査・検討会・指導・講師派遣・打合せ・普及啓発活動・委員会等の実施に必要な経費とする。活動時の車両使用に伴う燃油費は、15円/km。
- ・需用費・・・消耗品・会議費・印刷製本費等の経費とする。
- 消耗品費：文献、書籍、原材料、消耗品、消耗機材、各種事務用品等の調達に必要な経費とする。ヘルメット・手袋・安全靴・なた・のこぎり・事務用品。原則 3万円以下！
- 会議費：事業を実施するために必要となる会議の開催時に出席者に提供する茶等飲料類の調達に必要な経費とする。（事業実施主体の事務局は対象とならない）
- 印刷製本費：文書、図面、パンフレット等の印刷に必要な経費。
- 通信運搬費：郵便料、諸物品の運賃の支払い等に必要な経費とする、電信電話代・郵送費等。
- 委託料：当該事業の補助の目的である事業の一部分を他の民間団体・企業に委託するために必要な経費とする。
- 備品費：備品等の調達に必要な経費とする。
- 使用料及び賃借料：器具機械、会場、車両等の借上げや物品等の使用に必要な経費とする。（通常の団体運営に伴って発生す

る事務所の賃借料その他の経費は含まれない。車両リース代、チェンソーレンタル等。

(事業遂行にあたっては、3年以上の計画であること、境界線確認は1/5000森林計画図で明確なこと、面積は0.1ha以上あることなどが上げられているが、国有林などもOKとのこと。おいしい話だ。

松田前副会長、お疲れ様でした

事務局

当フォーラムの副会長をお願いしている松田英明前県造協会会長は、任期満了に伴い、今期副会長を退任されました。氏には、公私にわたって当フォーラムのためにご尽力頂きました。とくに大村での総会・懇親会や基調講演に多大のご助力を賜り、お世話になりました。

ここに感謝の意を表し、厚くお礼申し上げます。貴殿のますますのご発展を祈念し、今後とも当会へのご支援のほどよろしく願いいたします。

(事務局の手違いで3年間にわたってしまいました。お詫び申し上げます。)

新事務局長挨拶～私の抱負

長崎総合科学大学 環境・建築学部
人間環境学科 蒲原新一

平成25年度からフォーラムの事務局をお預かりした蒲原です。総会の折、申し上げたように“自然共生は人と自然との相互依存・連係であります。複雑化した社会をどう整理し、どう融和・統合させるかではないかと思っております。そのため私が専攻する環境管理科学がお役に立てばと思っております。環境を意識して業務遂行されている方々が多い、会員の皆様と相談・協力して、郷土環境の保全に微力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくご鞭撻のほどお願いいたします。

(株)エコシステム、嬉野温泉に事業進出!

事務局

(株)エコシステムの菅 洋一氏(当会運営委員)は、この度、佐賀・嬉野温泉に“山水グローバルイン”を開業し、5月11日(日)にそのお披露目があった。菅社長のスライドによるスマートホテルの施設概要説明の後、嬉野温泉協会会長などの来賓祝辞、嬉野芸者さんの祝い舞、宮原 ECAN 理事長(当会・会長)の乾杯と続き、およそ40人(うちフォーラム会員6名)の参席があった。1階はオオシラビソ?の大テーブルを配した交流サロン、2階には男女別浴場や家族湯、3・4階にはシングル・ツイン合わせて40室ある。内装も新調されて、階段室の壁の木と漆喰のコントラストも良く、手軽で快適なビジネスホテルだと拝見した。離れの露天風呂では五月晴れの空がまばゆく映った。営業開始への諸手続が進行中で、実オープンは5月中旬と聞く。

「地球環境保全と国際交流」を目指す、菅さんの事業意欲に敬意を表し、内外から多数の方々を訪れる場所となることを心から祈る。一泊:5000円の廉価である。

平成26年度(通算15回)総会開かれる!

事務局

本年度は、6月27日(金)セントラルホテル佐世保において幹事会が15:25から行われ、Save Japan 事業と森林保全再生事業についての提案があった(15:55終了)。総会は16:00から開催され、出席24名(うち委任状12名)の過半数で成立。「会員はそれぞれ多忙なので、無理のないよう細部にいたるまで頑張ろう」との会長(議長)挨拶のあと、蒲原事務局長から8個の案件について説明があり、すべて承認された。とくに森林保全再生事業について、既施工者として富永監事(NPOエコネット・ラボ代表)から現地:旧ながさき休養林(国有林)において過去に実施した事業の説明があり、また園路補修・樹名板設置など(9月~10月)や子供連れ行事(11月)な

どの計画について、事務局長から提案があった。基調講演は、長崎森林・山村対策協議会職員の豊澤健太氏に「森林・山村の多機能発揮対策」をお願いし、申請テクニックなど貴重なお話を伺い、活発な Q&A があった(冒頭、「論説に変えて」の項、参照)。親睦会は、早瀬副会長の乾杯の音頭に始まって、議論の熱気を冷ました。総会以上に談笑が飛び交い、20:30 に解散した。

(会長始め出席者の皆さん、お疲れ様でした。とくに会場のお世話を頂いた、田雑さんありがとうございました。西田さん、幹事職の記載欠落、申し訳ありません。出席者：早瀬、菅、神山、蒲原、川里、来崎、中瀬、西田、宮原、為永、田雑、富永、山本則 ABC 順)

佐世保「庭建」さん、緑化技術コンクールで理事長賞！おめでとうございます。

事務局

本会運営委員の田雑豪裕氏(株・庭建：代表取締役)が、このほど第2回都市緑化技術コンクール(財・都市緑化開発機構主催)で、理事長賞を受けた。県内では初のコンクール入賞で、屋上庭園の省エネ効果が証明されたもの。同コンクールは施工後、1年以上経った物件を検証するもので、総合的技術力や美観性が評価された。(ちなみに、夏場のコンクリート屋上の表面温度40℃の時、直下の部屋の室温は他の部屋に比べ9℃低かったことが証明された。)

永続的敗戦論—戦後日本の核心(白井 聡)から

事務局

著者は、東日本大震災を経験して、改めて日本は敗戦から抜け出していないことを強調している。何故か？

冒頭から、「原発事故発生」に際し政府は周辺住民の避難に全力を尽くさず、気象協会の御用学者的メンタリティとマスメディア及び財界の体制維持姿勢が招いた、「無責任」の深

淵であると、三つの領土問題(北方領土・竹島・尖閣列島)を例にあげて憤慨している。

以降の文章では、最後の帝国の崩壊により、権力が現実に対する支配力を失う運命にあることを知り、政府は「終戦」ではなく「敗戦」を隠蔽してしまった。つまり「敗戦後論」論争の意味を捨ててしまった(平和憲法を選び直す)。敗戦の否認は対米従属を招き、精神的墮落・腐敗してしまった、政府は恥知らずと弾劾する。

ソ連が千島列島を実効支配したことへの米国の容認は、日本が千島列島を放棄することに同意するという事実を生み、歯舞諸島・色丹島以外は諦めて日ソ平和条約に至った。そして、択捉・国後島をいじるのであれば沖縄は返さないぞ、という「ダレスの恫喝」を招いた。ここで四島返還は無理筋となり、沖縄に米国が居座り続けている、と記している。

そして「戦後の終わり」を告げるものとして、対外関係の諸問題を上げ、領土問題の本質と北朝鮮問題に見る永続敗戦を唱え、戦後の「国体」では「戦後」は終わっておらず、「永続敗戦」状態だと戦後日本の核心を述べている。ではどうする？著者はエピローグで三つの光影を印している。太田出版, 221pp. (川里弘孝)

鉄条網の歴史(石 弘之・石 紀美子共著)から・補遺

事務局 川里弘孝

ブックガイドで紹介した折り、「“外的排除”の論理」の説明が不十分だったので、本稿で補完したい。

福島に被災老人のことばに「あの鉄条網の柵は外から人が入り込んで面倒を起こさせないためと思っていたが、原発のなかの悲惨な姿を見せないものだった」があった。それはケニアでの「ホワイトハイランド：白人占有高原地帯」の体験の記憶を思い起こさせた、と著者はまえがきで語っている。

「§1 西部開拓史の主役」だった鉄条網はフロンティアの景色を変え、「§2 土地の囲い込みと土壌破壊」をもたらした。第一次大戦の兵器となった鉄条網は「§3 塹壕戦の主役」と

なった。「§4 人間を拘束するフェンス」ではオーストラリアの事情を取り上げ、「§5 民族対立が生んだ強制収容所」は「§6 世界を分断する境界線」を生み出し、「§7 追い込まれた先住民」では少数民族化を問題提起している。

“ウサギ防除フェンス”は、オーストラリア大陸には家畜に適した動物はいなかったもので、18世紀に始まった入植で欧州などからウシ・ブタ・ヒツジ・ウマ・ラクダなどの家畜が連れてこられた。彼らがオーストラリアの生態系を徹底的に破壊してしまった。なかでも狩猟用の移入動物がもたらした最大の災害はアナウサギである。

アナウサギは、南オーストラリアでは牧場のヒツジの草を食い荒らしたため、1880年代後半、まずビクトリア州で180万頭、ニューサウスウェールズ州では700万頭近く殺されたが、被害はほとんど変わらなかった。1902年頃から南北海岸線沿いに1600kmのフェンスが張られたが、柵の下にトンネルを掘られて、結局、個体数は導入から1世紀足らずの1950年には7億5000頭（推定）にまで増加し、ヒツジ1億頭分の草を横取りし、農作物に被害を与えた。天敵のキツネが放されたが、有袋類が補食されて小型カンガルーが絶滅に追いやられた。オーストラリアに生息する、ディンゴ：オオカミ亜種のための、5,614頭¹に及ぶフェンス（高さ1.8m²）もある。

最終章の「§8 よみがえる自然」では、チェルノブイリの1986年の事故以来、「永久立ち入り禁止区域」では、高齢者の無断帰還をウクライナ政府は黙認しているという。朝鮮半島の「軍事境界線」と同じく、そこは皮肉にも野生生物の天国となって“制限区域”はまれに見る生物多様性の“保護区”となった（チェルノブイリの森～事故後20年の自然誌：NHKドキュメンタリー、2007）。UNEP（国連環境計画）の呼びかけで、希少動物の再導入（ヨーロッパバイソンなど）も計画されているという。また、チェルノブイリは高濃度放射能被爆の「実験場」となっているが、線量レベル毎の追跡は行われていない。

福島事故では、アメリカ・サウスカロライナ大学のムソ教授らが福島大学・東京大学と共同研究している。北大チームは、アブラムシの1割に器官欠損・器官壊死などの奇形や、

セイタカアワダチソウの葉の奇形現象を見つけている。何十年後にマヤ文明のような古代遺跡なるのだろうか、と、“鉄条網の外的排除”を著者は結んでいる。

朝鮮半島の“軍事境界線（非武装地帯：MZ）”は、黄海の漢江・河口から日本海側の麓まで248キロの南北2キロ～4キロ幅の緩衝地帯で、国境線ではなく実効支配地域の境界線である。しばしば武力衝突や発砲事件もあり、韓国映画「JSA」の題材にもなった。

しかし、軍事境界線には6本の河川が流れ、平野と湿地帯（西側）、山岳地帯（東側）の多様な自然は、過去20年間で草原や森林が目に見えて戻り、野生動物も増えて境界線内の動植物は2711種にも及び、東アジア有数の生物多様の宝庫となった。67種の絶滅危惧種・保護対象種も確認され、韓国で最も豊かな生物多様性を誇る地域となっている。即ち、ほ乳類52種（韓国全体の52%）、鳥類201種（〃51%）、淡水魚類106種（〃12%）、両生・爬虫類29種（〃71%）、植物1597種（〃34%）が生息・生育している。

（筆者は現役時代、これらと対馬島を連結させた「国際自然公園」制度を提唱したこともある）。

現代に生きる百年の森づくり は先人達のせめぎ合いだった！ 『明治神宮 伝統を創った 大プロジェクト』(今泉宣子^{よしこ})から～ その3

事務局

（前号までのあらすじ 森のビジョンを示した本多静六、林苑計画を立てた本郷高德、術と学との橋渡しをした上原敬二を中心に、造営実現の様子を伝えた。人名を除く太字は著者がとくに強調した字句）

§3：都市のモニュメント

1) 伊藤忠太・佐野利益・折下吉延：山形のエンジニア三傑 この3名については林学、農学、工学の系譜としてあげられている。造営局には帝国大学から本多静六博士・林学、原熙（ひろし）博士・園芸学が参与として関わっ

ていた。林学系内苑と外苑を結ぶ参道の設計において、林学系と農学系のせめぎあいが行われていたのである。また工学系（土木・建築）は建物のみならず境内・外道路計画・記念建造物のデザインを担当していた。伊藤（建築・造家学科出身）、佐野（構造・造家学科改め建築学科出身）、折下（公園・農学科出身）の3人は山形出身の技術官僚として能力を発揮する。薩長土肥に対する奥羽列藩の東北人の切り込みというか、切磋琢磨で軸を同じにする。とくに折下は原助教授（当時）の後継者として目され、造営局入りや宮内省内苑寮園芸係技手として原一派を支えたといわれている。

2) 『伊藤忠太』：オーソドックスへの要請—“普通”の社殿様式を求めて 助教授時代のアジア旅行の経験から、「法隆寺建築論」を興して日本建築の正当性を唱えて「建築進化論」を確立した。「明治神宮の建築」では、これまで“神明造”だった社殿様式を“流造”に変えて“素木造”とするよう提案し、現代の芸術の最善をつくした明治新型の建築を実現したいとしている（T3）。調査会特別委員会では各分野の専門家の論争があったらしいが、当時として計画策定に当たっての議論・合意形成は新しい手法であったと阪谷芳郎委員長は書き残している。造神宮技師兼内務技師となっていた伊東が、最も“普通”の典型：スタンダード（流造）を選択したのは、神明造（上代）、流造（中古）、権現造（近世）の流れを変え、古式は内苑、新しい「明治式」は外苑、との調和を意図したのではないかと、著者は見ている。

3) 工学と農学のそれぞれのアプローチ 参道の配置計画には幾多の変遷があったらしい。表参道は初日の出が拝める方向につくられたが、内苑と外苑との連絡道路は裏参道と呼ばれる。ここでも工学系と農学系それぞれのアプローチに違いがあったという。工学（建築）系は鬼門を避けた側面美しさを強調した社殿と祭式の調和をのぞんだ。一方、農学系は南面する社殿には北進するのみとし、調査会会長（大隈重信）も加担した。さらに御苑：井伊家下屋敷時代からの「庭園区域」を避けることを折下吉延らは率先反対したらしい。結局、陸軍省の不承知もあって南参道：原宿口

を表参道、北参道：代々木口を裏参道と決定する、ことが委員会報告書に記されているらしい。しかし著者は、旧代々木練兵場とみゆき通りの関係性：行幸道路を兼ねていた参道の役割について、疑問を投げかけている。内苑植栽工事で“近代風致庭園の模範”される宝物殿前芝地を、ビスタ：眺望を重視した林学系と社叢（内苑）と明治式の外苑との中間的存在とする農学系の、いわばランドスケープ・クリエイト（創造）の違いを指摘している。林学系と農学系とが拮抗した、“境内西参道より宝物殿周囲にかけての大芝生の造成問題”もある。著者は、境内の大半を樹林地に想定していた本多ら林学系より、原・折下らの農学系は先駆的实践だったと、評価している。

4) 外苑という名のブラックホール 奉賛会の「外苑計画策定要領」に基づく「外苑造設大体計画図及説明書」は工事施工を委嘱された造営局が提示し、了承された（T6）。古市顧問（工学）、日下部辯・伊東忠・近藤虎・塚本靖・関野貞・佐野利（以上、工学）、川瀬善・本多静（以上、林学）、原熙（ひろし）（農学）の各委員が召集され、伊東・佐野・日下部・川瀬が常務委員となった。一方、造営局では外苑課を設置し、奉賛会委員のほとんどを委任した。つまり彼ら専門技術者たちは民間の奉賛会と内務省造営局の両者から設計・施工を任されたことになる。そして折下は芝地工事主任と庭園主任技師とを兼務することになる。さらに外苑庭園計画には本多・川瀬・原三人三様の計画案提示があったがまとまっていない。成案について佐野か折下かの両説があり、伊東が関与したとも言われ“ブラックホール”となっている。阪谷と伊東とのやり取りもあり、いわば“オールキャストの外苑工事”と著者は記す。外苑設計について、1) 苑路とは直線か、曲線か、2) 殿趾を重大視するか、否かの疑問もあったらしい。曲線は日本人の美的感覚からすると漠として国民性・趣味で好まれるが、整然とした直線的デザインになぜ奉賛会が舵をきったかは判然しないとの“根本問題”を著者は、委員らの議論の中心は神域と道路における“樹木の過多”ではないかと見ている。絵画館を中心として一直線のイチョウ並木を設計したのは折下吉

延だったが、裏手の葬場殿趾も外苑の隠れた出発点であつたらしい。つまり絵画館と殿趾はセットで考えられていたらしい。実現しなかったが 天皇・皇后の銅像をおくための肖像道を作る話だ。肖像道は記念塔に変わったが、設計したのは佐野利益で、モニュメントはシンプルで”日本精神“にあふれたものが良いとの彼の強い主張は、外苑青山口の門扉とともに”佐野鉄“と呼ばれる所以だ。彼の「家屋耐震構造論」は海外見聞中の現場体験したサンフランシスコ地震とドイツ留学によることが大きい。佐野博士の「耐震構造計算：地震力計算」は昭和56年建築基準法施行令改正まで続いたといわれる。ベルリンでの耐震耐火の実現“の覚悟だったと著者は言う。

5) 震災復興のダイナモ - もう一つの参道

関東大震災 (T14) は、戦前において世界最大といわれ、造営者たちにも影響を与え、外苑のほか日比谷・芝・上野公園などにバラック村が誕生した。造営局、奉賛会は競技場：避難民、絵画館：救護班と職員ともども救護の援助に当った。このほか乗合自動車車庫・公設市場・救世軍伝道館・満鉄病院や公衆浴場・炊飯所などもおかれ、まさしく”外苑村“だったといわれる。後藤新平内務大臣は自ら帝都復興院総裁となり、要(かなめ)の理事・建築局長となって復興事業を牽引したのが建築科学者佐野利益である。折下吉延は、外苑課庭園主任技師も復興院公園課長(公園を冠した日本初の課長ポスト)を兼務した。後藤の基本方針は1) 遷都しない、2) 復興費 30 億円、3) 欧米の最新の都市計画を採用して新都をつくる、4) 実施のためには地主に断固たる態度をとる、であったといわれる。後藤新平の東京市改造の成功は、日本における都市計画の確立であり、後藤と佐野のリーダーシップ連携、以前に辰野金吾教授(建築史)と佐野利益(院生・建築構造)の存在があつた、と筆者は高く評している。都市改造事業を担っていた、折下は奉賛会と区改正委員会からの囑託手当を受けて欧米各国の都市計画視察を行っているが、かれは都市計画の鼎の三足として土木事業・建築事業・公園事業を上げ、特に公園計画を重視している。”都市住民共同の庭であり運動場である“ことを強調し、シカゴ：ジャンクションパークやワシントンパー

クを例として地域制：ゾーニングシステムを推奨し、同時にプールバード(パークウェイ)システム：道路公園の提言を行っている。彼にとって震災後の都市計画事業は”都市市民の新しい公園“を模索する挑戦のフィールドであつた。外苑青山口から絵画館への“イチョウ並木”も道路公園のチャレンジの第一歩であつた。浜町公園・錦糸公園・墨田公園とつづいて諸公園のストックが飛躍的に向上するが、これらはボートレース場など本邦初の「リバーサイドパークウェイ」をつくったと本人も言っており、片や工場労働者の慰安・体育増進を眼目にしたとも言われる。著者も裏参道は乗馬道と植樹帯備えた立派な公園道路であると述べている。ところで表参道は「鎮座祭」までに完成したが(T9)、裏参道の竣工までに時間がかかっている(T10~S33)。これは都市計画事業(復興局)と内苑外苑連絡道路(参道)事業(造営局)との間での折衝が長引いたためである。この間、戦災もあつた。ここでの最前線で努力したのが折下吉延(復興局・造営局技師)であつた。この折、復興院公園技師として折下のもとで働いた上原は当初は上司をくさしながらも、終始、粘り強かった彼の政治性と都市画家・造園家としての活躍を賞賛している。折下は「自由空地」：都市の保健健康と保安ため公園・広場はもちろん道路・河川など建築物で被われていないところ全てを該当すると提唱した、今で言う open space である。明治神宮周辺の空間は日本初の風致地区に指定され(T15)、当時、画期的とされた同潤会青山アパート(直近に撤去が始まった)を含んで、まさしく“神宮コンプレックス”は「都市のモニュメント」になったと著者は強調している。東京空襲を受けた明治神宮は戦後一宗教法人となって、官司の諮問機関である「明治神宮造営委員会」によって復興基本計画が策定され、再建された(S33)。委員に佐野・折下も加わつたが、伊東の指導を受けた角南 隆(内務省建築技師)が中枢になったことに著者は注目している。ここで問題になったのは、新社殿はコンクリート造か木造か、で議論は続いた。決着をみたのは「神社木造論」の伊東忠太の弟子の一人岸田日出刀の登場と援護で、「社殿の主体は檜素木造とし、屋根は銅版瓦」とする基

本計画が決まったという。山形トリオに見る、せめぎ合いから生まれた力が明治神宮を誕生させ、街づくり、震災復興の原動力になった、まさしく“都市のダイナモ”であると著者は強く訴えている。

出展：今泉宣子(よしこ)『明治神宮 伝統を創った大プロジェクト』. 新潮選書, 351pp.

(続く) (川里弘孝)

ふるさとシリーズ —

大村市黒木町アスナロ(ヒバ・アテ)老齢造林地の紹介!

事務局

アスナロは“明日は(檜に)なろう”と例えられて来たが、井上 晋(すすむ)九大元教授(現:西南大教授)はれっきとした日本特産のヒノキ科アスナロ属、雌雄同株の樹木と断言する。優良な建築材・器具材としてヒバ材は古くから用いられてきたが、自然分布は徳島県・福島県・栃木県・群馬県を中心に表日本側に発達し、北陸内部の裏日本側に分布するのはヒノキアスナロ(ヒバ)と呼ばれる。また人工林では、能登半島で古くから輪島漆器の木材材を得るための、アテ林業は400年の歴史を持つ。

古来、九州では神社木や境木(個人の境界木)としてスギ・ヒノキが植えられてきたが、アスナロも含まれている。かつて木材を得る目的で試験的に造林した極小面積の林分が長崎県にある、と井上先生は20年前に知ったと言われる(筆者も伊藤長名誉教授とともに“長崎県の森林と樹木:1990”で記した)。

そこは“とりかぶと”でお馴染みの、多良山系西端にある鳥甲岳(769 ㍎)の東尾根ピークの摩利支天山の5合目に当たる萱瀬山(400 ㍎)国有林内の斜面地で、平均樹高20 ㍎・胸高直径50 ㍎、樹齢約180年のアスナロが40本ある。旧大村藩が、江戸末期に東北から種子を取り寄せて若木を育て、植林したと言われる。優良な建築材(土台に賞用)・船舶材(外板・甲板)・器具材(浴室・風呂桶)・工芸材(曲物・木地)・医薬部外品(歯磨き・育毛材)など広範に用いられている。

(以上、井上 晋:植物と人・いきもの達⑤、

ふるさとの自然と歴史:歴史と自然をまもる会第352号から・・・井上教授は連続して九州の樹木について連載されている。長崎東高出身。国有林普賢岳噴火影響調査委員会でご一緒させていただいた。(川里弘孝)

コラム —

現代のドンキホーテ~53旅 人・エコ爺の the twitter⑤

事務局

児童公園の砂場は吸殻の捨て場ではない!“ゴミ拾い散歩”の途中、児童公園にゴミが散乱しているのが見えた。近づくと、砂場がタバコの吸殻の捨て場となっていた。火を消すのに手頃だったのか、何と云うことか。これでは健全な子供が育つ訳がない。そこまで落ちたか日本人の大人!情けない。ま、最近の砂場は犬の糞による菌が繁殖しているのを嫌って、母親が幼児を遊ばせないため砂場が遊休化している背景もあるが・・・、一人憤慨している。近所のオジサン、子供の父親、孫をもつ爺さんたち、も少しマシになってもらいたい。せっかく藤棚に咲く見事なフジが台無しだよ。公園設計の見直しだけではないのだ。

ブックガイド 最近の読書から

●ゆうじょこう(村田喜代子).新潮社,317pp.

昭和初期、鹿児島(鹿)の貧農の子女は、15歳で熊本の遊郭に売られてゆく。楼主に試された後、花魁付き遊女として住みつく。おいらんはプライドが高いが、考え深い太夫であった。当時の世情を背景に交えながら、遊郭の日常を述べている。発展期にあった日本の一つの側面を、遊女を通して見た感があるが、官能描写も捨てがたい表現だ。

●花酔い(村田喜代子)新潮社,381pp.

官能的描写が多い作家とは思われない自然派的作品である。見直した。

●「リベラル保守」宣言(中島岳志)。

非常に魅力的な書名だったので読んで見たが、どうしても「リベラル」:liberalと「保守」:conservativeが結びつかなかった、対立的に考えていたからだろう。ましてや時間と空間

の接点で「所を得る」という、自己の存在根拠となる場所（トポス）：「トポスの論理」なる哲学的表現は理解できず、我ながら何とアバウトな自分よと嘆いた。ただ、出版に際してトラブルがあったことが記されているが、むしろこの現象に日本社会の縮図を見たような気がする。リベラルマインドは難しい。

public opinion(公的意見), popular Sentimental (大衆的気分)の勉強をさせて貰った。著者は北大大学院（公共政策）准教授。章立ては、§1 保守のエッセンス、§2 脱原発の理由、§3 日本維新の会への懐疑、§4 貧困問題コミュニティ、§5 大東亜戦争への違和、§6 東日本大震災の教訓、§7 徴兵制反対の理由、§8 保守にとってナショナリズムとは何か？となっている。（新潮社、207pp.）

●**ハコブネ**（村田紗耶香）. 集英社、201pp.

二人の女性を登場させ、異性愛と同性愛の場面を交互に転回させ、最後に地球と交わる描写は自己愛というか、自然保護の世界を想起させるのは思い過ごしか。

●**マウス**（村田紗耶香）. 講談社、237pp.

題名の言わんとする意味は、女の子から女性へと変化する、自分に存在する二つの異性格を、二人の女性に投影させた（パソコンのマウス？）、私小説のようにも見える。

●**グッバイ艶**（南川泰三）. 幻冬舎、275pp.

初体験の相手が、泥酔した年上の女性であったにもかかわらず、お互いに情を通じて惹かれてゆく。下戸の放送作家と男好きのインテリア・デザイナーとの生々しい生活をまとめているが、屈折した心の持ち主がレイプ体験者への愛を貫いた自伝的小説でもある。

●**生命の多様性**（E.O. ウィルソン、大貫昌子・牧野俊一訳）Ⅰ：320pp Ⅱ：228+91pp, 岩波書店.

進化生物学者（ハーバート大教授：社会性昆虫学）が一般向けに著した長編だが、中米・熱帯を中心とする地球環境の危機、生物大絶滅を指摘している。生物に興味を持つ人には良きバイブルとなる。物理学や化学から遅れている台頭した「生物多様性」の概念だが、地球の生物種は1000万あるいは1億とも言われる。著者は、系統分類学者の協力を得て生物の既知の種数を140万種と見積もっているが、混沌たる世界で整理が着いてないと言う。

しかし、全編を通じて北米・中南米・南米・太平洋の島々を舞台に、植物・樹木、鳥類・昆虫類・爬虫類・両棲類、水生動物・土壌動物など、まさしく、生態学・保全生物学・進化生物学・生物地学・遺伝学・集団遺伝学・気候学・統計学・人口統計学などあらゆる学術を駆使した、自然保護の精神が貫かれている。後半の第Ⅱ部では人間の影響と注及び文献に当てられている。注の最後には、生物学の説明や用語解説があるが、著者が如何に一般書として著すのに苦慮したかの意図を感じる。所々に豊富な口絵カラー写真や多様性を模している挿入図も興味を引く。素人向きに書かれているが、読了するには難儀な長編物ではあった。（詳しくは次号で取り上げたい）

●**知られざる富士山・秘話 逸話 不思議な話**（上村信太郎）256pp, 山と溪谷社.

§1. 富士山の生い立ちは何？なぜ各地にふるさと富士が？, §2. 崩れ続ける山？春あられる豆蒨き小僧とは？自然動植物, §3. 聖徳太子も富士に登った？霊山富士の伝説, §4. 富士講とは？富士を広めた人物は？歴史と民俗、§5. 開国直後、外国人初の登山者は？外国人が見た富士山, §6. 富士に生涯を捧げた写真家とは？最多登山者は？最高峰に魅了された人々、など我々も知らなかった、多種多様な記事・内容が織り込まれている。おはち巡りの由来は知らなかった。添付されている、富士山の噴火・登山・出来事年表お興味を引く。参考文献、富士山の概念図・三層構造図、世界の最高峰と標高・標高、日本各地の「ふるさと富士」、富士山頂の見取り図、闇の「刹(せつ)の海」と「宇津湖」、首都圏の主な富士塚」など参考図表も豊富である。

●**超次元自衛隊**（遙 士伸：しのぶ）コスミック出版、218pp.

（こういう発想の読み物が発行されるのは意外だな。自衛隊が駐屯するからか？）

●**夫の財布 妻の財布**（今井美砂子）東方出版、227pp.

平成時代の物やお金にまつわる短編を、女性作家ならではの繊細な感覚で、「物も天下の回り物」・「ふたりの嫁」・「夫の財布 妻の財布」の章にまとめている。

●**かけら**（青山七恵）152pp, 新潮社.

（最年少で川端康成文学賞を受けた。どこで

も見られる日常生活の三つの短編からなる。父と娘の対話を通じて、「かけら」にたとえた文章の標題は、「風景観」の多様性を思わせた。

●**特務艦隊** (C.W ニコル) 412pp, 文芸春秋.

第二次大戦の戦時下に、自衛隊がタイムスリップする設定だ。著者は、自衛隊出身かどうかよくわからないが、戦史・装備品の描写は詳しい。ニコルを見直した。「あとがき」から推察するに、本編のモデルは当フォーラム顧問の池田武邦氏に間違いない。

●**カリコリせんとか生まれけむ** (会田 誠) 251pp, 幻冬舎.

表紙や挿絵に惹かれて手に取った。少女の自然の姿をうまくとらえてすばらしい。さすが東京芸大出身の現代美術家である、奥方も現代美術家とか。著者が副業としている幻冬舎のPR誌に毎月書いた物を1冊の本にした。最終ページの「みんな生えてんだよなあ」の絵には失笑した。笑いがこみ上げてくる。(章毎に挿入された絵のコピーの特異性から手にした。)

●**地政学とは何か** (クラウス・ドッズ, 野田牧人訳) 241pp, NTT 出版.

国家安全保障について、地政学は特に第2次世界大戦以降、注目された。地理学・地図学と歴史学・政治学の融合科学として、正規地政学(学術・シンクタンク)、実地的地政学(外交政策など)、一般人(メディアなど)の地政学のレベルがあると著者は言う。読み解くと米・ソ冷戦時代や日・米通商の動きがよくわかる。全6章からなるが、各章に総括が記述されているのが良い。

●**ココロ ファインダー** (相沢沙呼) 224pp, 光文社.

高校2年のカオリを主人公にした、カメラ部活での交友を物語っている。内気なミラ(鏡子)、無愛想なシズ(静子)、文化祭実行委員のナオ(直子)、下級生の勉強熱心な秋穂、密(ひそ)かにかこがれるサッカー部の鳥越くん、2浪後、デジカメを駆使してシャッターチャンス、アングルからアクション、現像までこなす堀沢部長。サッカー部と美術部の男子の描写もあり、時たま退学の不安も入れた、さわやかな高校生活と10代特有の心理描写がよい。

●**鯉浄土** (村田喜代子) 261pp. 講談社.

「からだ」、「庭の鶯」、「薔薇体操」、「力姫」、

「科学の犬」、「残害」からなる。ほとんどが身の周りや日常生活からのエッセイ。25歳年下の惨々たる妹の体のことや舅とその子供に関わることなどが収められているが、「科学の犬」だけは犬がたばこ吸う写真からの、作者の妄想的エッセイとのことである。タイトルの「鯉浄土」も肝臓を患った夫と川魚にまつわる話である。

事務局だより

●振り込み用紙の同封を始めて、会費未納会員が減りました。会員皆様のご協力に感謝します。さらなる発展を心がけます。

編集後記

“現代に生きる百年の森づくり・・・”は、長文となったので分割・登載しているが、これはとくに造園関係者にはぜひとも原本を読んで欲しい。現代の造園家は、明治神宮造営に勝るプロジェクトを成しているか？ 2020年のオリンピック公園がその責を背負っているような気がしてならない。(Ka)

竹林整備が動き出しますね。個人的には、かぐや姫を探しに参加しようと思います。夜に光る姫も潜んでいるのではないかと期待しています。(Ku)

【編集部から】

原稿を募集します。論説・随想・紀行文・技術報告・写真等、体裁は問いません。500～1,200字程度でお願いします。二段組みはこちらでやります。E-mailでの投稿、大歓迎です。(M) (nagasaki_coexistence@hotmail.com)

事務局 会長 宮原和明

〒850-0036 長崎市五島町3-3-206
NPO 環境カウンセリング協会長崎内
TEL: 095-818-3305/FAX: 095-826-3693
HP: <http://www.nature-man.org/index.html>
E-mail: Nagasaki_coexistence@hotmail.com
NL 編集担当: 川里 (携帯) 090-1192-4811
事務補助: 牧 (携帯) 090-7161-5408

アネックス1 事務局長 蒲原新一

〒851-0121 長崎県長崎市宿町3-1
長崎総合科学大学 環境・建築学部 人間環境学科
TEL 095-838-5156

アネックス2 副会長 為永一夫 (県央地区担当)

〒856-0820 大村市協和町790 (株) タメナガ造園
TEL: 0957-54-0271 FAX: 0957-54-1127

アネックス3 副事務局長 赤瀬憲市 (県南地区担当)

〒851-0104 長崎市船石町1184 (株) 水樹
TEL: 095-839-1860 FAX: 095-839-9103

アネックス4 副事務局長 田維豪裕 (県北地区担当)

〒857-1161 佐世保市大塔町574-5 (株) 庭建
TEL: 0956-31-2011 FAX: 0956-31-2310